

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月20日実施)	
		(平成28年度策定)		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の興味・関心を高める教育課程や組織的な授業改善に取り組む。 ②学校行事・生徒会活動・国際教育を充実させ、国際的視野、自主性と高い人権意識を身に付けさせる。	①主体的で対話的な学びを取り入れた授業改善に組織的に取り組む。 ②各種行事等を通して、国際感覚と人権意識の向上に向けた指導を行う。	①教員相互の授業改善研究を踏まえて、生徒の対話や主体的な活動を中心とする授業を増やす。 ②日常の授業や学校行事等を通して、文化理解を深めるとともに、学んだことに関して情報発信ができるよう指導する。	①生徒による授業評価のうち、「生徒が主体的に取り組めた」という評価が、6割を超えたか。 ②国際理解アンケートで「自国の文化を発信できる」という回答の割合が、昨年の数値を上回ったか。	①第一回授業評価で「生徒が主体的に取り組めた」という評価の平均は9割であった。 ②「自国の文化を発信できる」と回答した生徒の割合は、3年生では昨年の数値を上回ることができた。	①生徒主体の深い学びが実感できる授業を目指し、引き続き学校全体で授業改善を推進する。 ②2学年は昨年の数値を上回ることができなかった。自国の文化について理解を深める取り組みを行い、国際教育のさらなる充実を図る。	①来年度も引き続き授業改善に向けて取り組んでほしい。 ②自国の文化理解を深めるだけでなく、語学力の向上にも力を入れるべきである。	①生徒の主体的な学びの機会は増えているが、学力をさらに伸ばすための組織的な授業改善を推進する。 ②自国の文化発信と語学力の向上について、具体的に検討していく必要がある。	①基礎学力の定着のための様々な取組を充実させる。 ②伝統文化の探究的な学習と発信の機会を増やすなど、具体的な方策を検討する。
2	生徒指導・ 支援	①部活動を通して、コミュニケーション力や自己マネジメント力を養う。 ②命の大切さを理解させ、人権意識を高める。	①部活動の活性化を図る。 ②教育相談体制を整備するなど、生徒支援を図る	①部活動全体に係る講習会を行い、指導力の向上を図る。 ②個々の生徒との面談を充実させるとともに職員会議等で情報を共有する。	①生徒アンケートで活動内容への満足度が上がったか。 ②情報共有によって生徒事案が解消した例があったか。	①8割以上の生徒が、部活動・行事で人間的に成長できたと評価した。指導力の向上を図る講習会を実施した。 ②SC、SSW等と連携し、家庭と問題共有することで不登校を解消することができた。	①各部活動において年間活動計画を精査し、より多くの成果を上げるための効率的な指導ができるようにする。 ②欠席がちな生徒が増加する傾向にあるので、家庭との連絡を取り合いながら、きめ細かく、生徒の心情に寄り添った教育相談体制が必要である。	①生徒の活動等が活性化し、地域貢献にもつながっている。 ②教育相談体制に対して概ね理解が得られた。	①部活動は盛んだが、活発さの度合いに差が大きい。 ②年度始めには、人間関係構築のための働きかけ方にさらなる工夫が必要である。	①計画的な指導を推進し、部活動の活性化に取り組む。 ②個別面談の充実や学校全体の相談体制の強化を図る。
3	進路指導・ 支援	①生徒が積極的に進路を考え、個に応じた進路を実現をできるよう進路指導の充実を図る。 ②様々な体験活動を通して、働くことの意味や社会との関わりについて考える機会を提供する。	①生徒の進路実現に向けて、学習意欲の向上を図る。	①生徒の進路実現に向けて、模擬テストや定期試験のデータを分析し、積極的に面談を行い、支援する。	①第1希望もしくは第2希望に進路決定できた生徒が5割を超えたか。 1、2年生は進路目標を明確にすることができたか。	①3年生は指定校推薦や公募推薦で約140名が第一希望で入学出来た。1、2年生は自らの進路目標をさらに絞り込むことができた。	①増加傾向にある指定校・公募制推薦の進学者全員が第1希望とする進学先へ入学出来るよう指導する。また、将来の生き方を熟考させ納得できる進路選択を指導する。	①一人ひとりが望む進路に進めるように、1学年からの意識啓発と丁寧な進路指導をお願いしたい。	①生徒が自分の適性や興味関心を生かした進路実現を成し遂げたかについては課題も残った。	①入試の仕組みや自分の適性について、蓄積されたデータを活用して、入学時からより細かい指導を行う。
4	地域等との 協働	地域との協働を推進し、地域に根差した信頼される学校づくりを図る。	地域やPTA等との連携した行事や取組の充実を図る。	地域の行事に関する広報を活性化し、地域と連携した行事への参加生徒を増やす。	地域と連携した行事への参加生徒を増やし、参加後のアンケート等で達成感を感じた生徒が半数を超えたか。	PTAとの合同教室整備作業に22名の生徒が参加し、生徒たちは充実感を得ることができた。 DIG、喫食訓練を校内で実施。また、地域の防災訓練に2年生の防災委員7名が参加し、達成感を得ることができた。	地域と連携した行事やPTAとの教室整備など、より広く参加を呼びかけ生徒のボランティア意識を醸成する。 避難所協力協定の締結に向けて茅ヶ崎市と協議を進める。	吹奏楽部やJRC部の生徒や生徒会役員が小学校等の行事に参加し、児童に良い影響を与えることができた。	地域連携をさらに進め、生徒の活動にさらに成果が上がるようにする。	今後も様々な場面で生徒が活躍できる場を提供する。

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月20日実施)	
		(平成28年度策定)		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①信頼される学校づくりのために体制の改善、充実を図る。 ②事故不祥事防止、円滑な学校業務運営、生徒の学習環境改善に努める。	②事故不祥事防止に組織的に取り組む。 また、校内の整備・設備の安全と学校美化に努める。	②各グループ・各学年においても事故不祥事防止研修を取り入れ、さまざまな教育活動に関して教員の事故防止意識を高める。学習環境の改善に向けた校内整備に取り組む。	②グループ、学年を単位とした事故不祥事防止研修により事故を未然に防ぐことができたか。 校内の環境改善に関する生徒や保護者の要望・意見に即した校内整備ができたか。	不祥事防止研修や人権研修を実施し事故の防止に取り組むことができた。 AEDを増設するなど、校内の環境改善を図ることができた。	事故不祥事防止に向けて継続的に適切・適時の研修を計画し、未然に事故を防止する。校舎内外の美化推進や老朽化した施設の修繕など、生徒の学習環境改善に取り組む。	土砂の流出対策や樹木の剪定など学校周辺の環境整備についても、より積極的な対応をお願いしたい。	校内の学習環境整備に一定の評価が得られた。学校周辺の環境整備については課題が残った。	学校周辺の環境整備等についても検討を進める。